

(神流川沿岸地区)

実現している優良経営体の取組を御紹介します。
ている法人と生産者団体です。



かななくん（神流川イメージキャラクター）

周年出荷体制確立により クジャクソウの生産量全国有数を誇る産地へと発展 ～神川花卉生産組合～

経営体の概要

平成28年
基幹作物：クジャクソウ（宿根アスター）
作付面積：8.5ha（約240万本／平成28年度出荷実績）
組合員：10戸

取組の経緯と経営転換のポイント等

昭和50年養蚕地域にあった5戸の生産者がさく（切り花）の栽培を開始しました。こうした中で、昭和52年に市場性や規模拡大が有望なクジャクソウの栽培を開始しました。

先進事例が少ない上、未経験だったクジャクソウの周年出荷が可能となる栽培技術を一から確立し、さらに、前歴国営事業を契機に組合員数・面積とも拡大を図り、全国有数の産地へと発展しました。

①栽培技術の確立

作業が集中する収穫時期を分散するため、遮光処理による促成栽培、電照処理による抑制栽培を創出し、さらに、苗冷蔵貯蔵技術の開発により、3月～12月の長期にわたるクジャクソウの周年出荷体制を確立しました。栽培品種は、消費者ニーズに応じた組合オリジナル品種を順次育成し、市場から高い評価を得ています。



荷造り状況及び組合員

②組織運営の工夫

組合は、①販売部②技術部③資材・文化部④婦人部の4つの部会からなる部会制をとっています。一人ひとり運営上の役割を担う体制は、組織としてのコンセンサスを高め、全員が問題意識を持って会の運営に当たることから、営農上の課題の改善が常に図られています。また、JAや県などの関係機関と連携しブランドの維持に取り組んでいます。

③流通販売の工夫

クジャクソウの出荷にあたっては、市場評価を維持するため組合で栽培協定を結ぶとともに他産地より厳しい出荷規格を設定・遵守し、市場では絶大な信頼を得ています。また、消費者ニーズにあった品種を栽培するため、毎年共同育種を行い、評価の高い品種は商標登録を行っています。



クジャクソウ栽培状況